



平成29年度「魅力あふれる学校づくり推進事業」

各学校における事業評価



<南学区>




学 校 名		事業名及び事業内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△	学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
22	米沢東	<p>[未来を拓く主体的な学び 「米東 i-See プロジェクト」の推進]</p> <p>1 課題探究学習:探究活動および発表会実施のための教材開発や機材購入等、環境整備を行った。今年度も、3年次生の探究活動の集大成として、『要旨集』を作成した。</p> <p>2 地域フィールドワーク:本校で実施した総合大学体験学習の中に地域学習講座を開講し、東北芸術工科大学と連携しながら米沢市周辺のフィールドワークを実施した。</p> <p>3 社会人基礎力講座:課題探究学習におけるプレゼンテーション能力の育成を目指し、山形大学と連携しながら講座を開講した。</p>	<p>○「課題探究学習」の指導体制がこの5年間で完成した。全職員による指導体制が確立したことは大きな成果であった。</p> <p>○昨年度に引き続き、3年次生の『要旨集』を作成したことは、1・2年次生に継続した課題探究学習に取り組みさせる上で、非常に有効である。</p> <p>○学ぶ意欲やプレゼンテーション能力が大きく向上した。</p> <p>○課題探究学習で得た能力を、推薦・AO入試に積極的に生かし、進路実現を可能にした生徒も見られた。</p> <p>△大学進学を目指す生徒の学力向上にどう繋げるか課題である。</p>	<p>○生徒が意欲的に課題探究学習に取り組んでいる。</p> <p>○「課題探究ノート」は、学習カルテとして大変意味がある。</p> <p>○生徒がフィールドワークを通して、授業で学習したことを体験できたことは良かった。</p> <p>△文章力や表現力を身に付けるためには、絶対的な読書量が必要である。読書量を増やし、思考力を高める指導が必要である。</p>
24	米沢商業	<p>[社会に貢献するビジネス人材の育成]</p> <p>1 米商物産館の開催</p> <p>(1)米商物産館に向けた新聞折込広告の実施 平成29年10月12日(木) 米沢市内配達の新新聞各社</p> <p>(2)米商物産館の開催 平成29年10月15日(日) 伝国の杜広場にて</p> <p>2 会計のプロフェッショナルの育成 外部講師による日商簿記検定講習の実施</p> <p>第1回 平成29年10月 第2回 平成29年11月 第3回 平成30年2月 第4回 平成30年3月</p>	<p>1 米商物産館の開催</p> <p>○ 商品の企画・仕入れから販売までを実際に体験する機会となり、生徒一人一人が緊張感や責任感を持って取り組むことができた。</p> <p>△ 新聞折込広告の作成にもっと生徒がかかわるようにできればよかった。</p> <p>2 会計のプロフェッショナルの育成</p> <p>○ 通常の授業ではなく、専門学校の先生による講義を受けることで刺激を受け、学習の意欲が高まったように感じられる。</p> <p>△ 検定試験の合格に直ぐには結びつかなかった。</p>	<p>1 米商物産館の開催</p> <p>○ 売れることも勉強であり、売れないことも勉強になる。実際の活動を通してしか学べない貴重な体験であると思う。</p> <p>2 会計のプロフェッショナルの育成</p> <p>△ 各種検定のさらなる合格者増に向けて、取り組んで欲しい。</p>



学 校 名	事業名及び事業内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△	学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
23 米沢工業 全日制	<p>[地産地就促進事業 Part 2] (地域と連携した先進的なものづくりの実践と普及)</p> <p>1 スマートエコハウスにおけるエアコン効率化の研究 2 水力発電装置と地下水利用装置のデータ収集 3 置賜地域の間伐材を利用したベンチ製作 4 出前講座の実施と啓発活動</p>	<p>○スマートエコハウスの研究から、断熱工法の仕組みや施工方法について深く学ぶことができた。</p> <p>○水力発電の研究を通して、発電の仕組みの学習、取水量測定など専門の学習を深めた。水利権について学ぶことができた。</p> <p>○東日本大震災被災地(石巻市)で間伐材によるベンチづくりをし、地域の方々との交流を深め、社会貢献の大切さを学ぶことができた。</p> <p>○出前講座を通して、小学生へ環境保全の大切さを伝え、ものづくりへの関心を高めることができた。</p>	<p>○基本を大切にしながら、専門的な知識を学べる取組みである。</p> <p>○地域の資源を有効に利用している。</p> <p>○地域貢献活動として評価できる。</p> <div data-bbox="1641 422 1928 459" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水力発電の取水量測定</div> 
米沢工業 定時制	<p>[キャリア教育の推進—自主的に進路決定ができるようにする取組み]</p> <p>1 企業見学 (株)大風印刷 正絹羽毛ふとん(株) 2 社会的自立に必要な能力の育成に関する講話及びワークショップ 桑名暢 氏(キャリアプランニング(株)) 「高校卒業後(次のステップ)必要な3つの力」</p>	<p>○生徒アンケートの結果、「とても参考になった」が72%と高く、今後の進路決定に向け自ら考える態度が見受けられた。</p>  <div data-bbox="1010 1129 1417 1177" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">企業見学会 正絹羽毛ふとん(株)</div>	<p>○アンケート等から各事業に積極的に生徒に取り組む姿勢が見受けられ、これからも継続して行う必要性があるとの評価があった。</p>

学 校 名	事業名及び事業内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△	学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
25 置賜農業	<p>[外部認証を活用した農業の六次産業化を担う人材の育成]</p> <p>1 外部認証に係わる事業 (1)GAP(Asia GAP)講習会への参加 (県立農林大学校 主催)</p> <p>(2)GAP 講習会への参加 (山形県農政企画課 主催)</p> <p>2 六次産業化に係わる事業 (1)加工品の商品開発 (2)町内や東京(大丸)での販売会 (3)食品表示法に係わる講習会への参加 (4)食品衛生責任者養成講習会への参加</p>	<p>○商品開発に取り組んだ生徒の自己評価は、A～Dの四段階でほとんどの生徒がAと評価し、満足度が高い授業を展開できている。</p> <p>○農業生産を学ぶ生徒の授業評価では、「興味・関心を持って取り組んだ」の設問に96%が当てはまる、「実習に真剣に取り組んだか」では97%の生徒が当てはまると回答した。</p> <p>○商品開発について、新たにレトルトカレーなど地域のお土産品として販売にこぎ付けた商品ができた。</p> <p>○食品だけでなく、町の特産品ダリア栽培に関わって、冬咲きダリアの技術を地元農家へ普及できた。また、ウイルスフリー苗の作出も実現できた。</p> <p>△生産工程の外部認証取得に関する経費が予想よりも高額である。</p> <p>△施設の改修・調整が必要な箇所があり、施設面での課題がある。</p>	<p>○外部認証の取得は学校評議員や地元農業団体からの関心も高く、ぜひ学習の一環として取り組んで欲しいという要望も出ている。</p> <p>○町内物産販売施設や各種イベントにも積極的に参加しており、「置農生の協力に感謝する」という言葉を町長より直にいただいた。</p> <p>△農業分野に関して最新の機械など設備投資を行い、先進的な農業の取組みを行って欲しいという要望がある。</p> <div data-bbox="1688 667 2042 935" data-label="Image"> </div>
27 高島	<p>[地域の課題解決、魅力発信プロジェクト]</p> <p>1 地域の名所・旧跡等を巡る「地域探訪ツアー」を行う。</p> <p>2 小中学校の地域学習のありようについて調査する。</p> <p>3 町内有識者によるシンポジウムを開催する。</p> <div data-bbox="669 1171 972 1401" data-label="Image"> </div>	<p>○1年次生を対象とした「地域探訪ツアー」を通して、「地域に深い愛着を持ち大切にしたい(貢献したい)」とする回答が増加した(事前アンケート 23%→事後 40%。「ある程度」とする回答と合わせると 80%→91%)。</p> <p>○2年次生を対象とした「シンポジウム」を通して、「(地域有識者の)自らの歩み」から自らの進路について考察し、また、「地域の魅力と課題」について考えを深めることができた。</p> <p>○高島町内の小学校6校、中学校1校に対して、地域学習への取組み状況を聞き取り調査したことで、本校で地域学習を導入する際の生徒の「レディネス」を把握することができた。</p>	<p>○地域学習の推進、地域貢献を通じた絆づくりの取組みについて良好である。</p> <p>○地域学習の今後の方向性についても良好である。</p> <p>△生徒の通学範囲が高島町だけではないため、高島町以外についても暮らしの課題等のテーマを見つけて取り組んでほしい。</p>

学 校 名		事業名及び事業内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△	学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
26	南陽	<p>[南陽H.S. 地域とともに歩む!]</p> <p>1 部活動や生徒会を中心として地域の文化的行事に参加し、交流を図る。 (1) 熊野大社 万燈神輿渡御への参加・協力 (2) 赤湯夏祭り神輿担ぎへの参加・協力 (3) フラワー長井線祭りへの協力</p> <p>2 小学校や周辺施設を訪問して出前活動を行う。 E S S部の沖郷小での英語読み聞かせ</p> <p>3 中学生を招いて技術指導講習会や競技会を開催する。 南陽高杯バスケットボール大会</p> <p>4 専門家を招聘してスキルアップ講座を開催する。 外部講師によるトレーニング講座</p>	<p>○地域の伝統行事に参加したことによる本校生の地域理解の深化と地域貢献への達成感。 ○地域住民の方、子ども達の本校理解。 ○新規事業の実施（赤湯夏祭りへの参加・協力）</p>  <p>熊野大社 万燈神輿渡御</p>	<p>○地域との交流による地域貢献（活性化）と本校生の人間的成長。 ○地域住民、子ども達の本校理解。 ○若者が地域行事に参加することによる地域の活性化。</p>
29	長井工業	<p>[人材育成「源流」プロジェクト]</p> <p>1 講話（対象：全校生・保護者） 「志を立てよ!!一切に思うことは必ず遂ぐるなり」 (株)シェルター 代表取締役 木村一義 氏</p> <p>2 高校生ものづくりコンテスト山形県大会、メカトロアイデアコンテスト参加・見学</p> <p>3 技能検定の取組み</p> <p>4 次世代リーダー育成セミナー (1) 山形大学工学部 横山道央准教授研究室体験活動 (2) 福島キャノン(株)、(株)ヤクルト本社福島工場 見学研修</p>	<p>○講話では地元だけでなくグローバルに活躍する講師の話聞くことができ、ものづくりに携わる職業人として意識の高揚を図ることができた。 ○高校生ものづくりコンテスト山形県大会旋盤作業部門で優勝するなど活躍することができた。 △次世代リーダー育成セミナーにおいて山形大学での体験活動や企業見学など自主的により多く生徒が参加するようにしたい。</p>	<p>○講演会や全校課題研究発表会での様子から学校の取組みや、資格取得に対して高く評価していただいた。 △本校受検者を増やすための対策</p>  <p>メカトロアイデアコンテスト</p>

学 校 名	事業名及び事業内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△	学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
30 荒砥	<p>[地域貢献、地域との絆づくりに向けた取組み]</p> <p>○既存の地域事業へ積極的な参画</p> <p>1 これまで以上に積極的に参画し、地域の各事業について、課題を見つけ、更にできることを考えてみる。</p> <p>2 生徒会研修会で各事業における諸課題について検証する。 (昨年度の地域各事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次ボランティア・読みきかせボランティア ・元気ニコニコ健康まつり・保育園訪問演奏 ・フラワー長井線まつり等地域イベントへの協力等 	<p>○リーダーが育ち、生徒会活動が活性化した。</p> <p>○学校と地域がより密接に関わり、地域に根ざした学校としての信頼が高まった。</p>  <p>高齢者交流</p>	<p>○ボランティア活動等地域とのつながりがすばらしいので、今後とも継続して荒砥高校の良さを発信してください。</p> <p>△生徒、教員の多忙化。</p>  <p>除雪ボランティア</p>
31 小国	<p>[白い森おぐに ひとつくり・まちづくり —国際感覚を身につけ地域を活性化する人材の育成—]</p> <p>1 「地域文化学」において、課題設定と目的の明確化、情報収集能力の向上を期し、地域理解を深める中心的活動としての基盤をより強固にする。</p> <p>2 地域の伝統文化を一層深く掘り下げ、その魅力を理解すると共に、それを外部に積極的に発信しようとする態度を育む。</p> <p>3 広い視野で日本の芸術、文化に目を向け、より洗練された視点で地域伝統文化の継承と地域の活性化について考えさせる。</p> <p>4 インターンシップや高大連携の研究活動を通し、将来的な自己のあり方と社会における自己の役割を深く考えさせる。</p> <p>5 海外修学旅行や短期留学において、個々が設定したテーマに基づいた異文化理解や交流を行うことにより、各活動をより意義のあるものにする。</p> <p>6 充実した「活動報告会」を行い、地域の方々に学習成果を示す。</p>	<p>○これまで継続してきた、小国産ヤマウコギを原料にした新たな食品開発研究が注目され、町の名産品としての開発を示唆する提案が地元でなされるに至っている。また、伝統文化の研究においても広く知られていなかった事実を明らかにし、活動報告会で賞賛を得た。</p> <p>○海外修学旅行での異文化交流等の活動状況、事後総括を通し、国際理解における生徒の意識高揚が確認できた。</p>  <p>研究活動</p>	<p>○地域文化学、高大連携の研究活動、海外修学旅行などで外部研究者や町、地域の方々の協力を得ながら、積極的な取り組みがなされている。</p> <p>○恒例の活動報告会が内容、プレゼンテーション能力共に、年々レベルアップしている。</p> <p>△活動報告会に毎年新しい要素を盛り込み、地域の注目をより多く集めるとともに、一層充実したものにしていく。</p> <p>△インターンシップを一層充実させるために、どのような形で地域の協力を得るかが課題である。</p>